学生大使　実施報告書

氏名：鈴木　怜
学部・学科（コース）・学年：人文社会科学部・人文社会科学科（グローバル・スタディーズコース）・2 年
派遣先大学：新モンゴル学園
派遣期間：2024/02/26～2024/03/11

１　日本語教室での活動内容

新モンゴル学園では中学生、高校生、高専生を対象に、今回の派遣生 10 人がそれぞれ分かれて日本語教室を実施した。中学生と高校生は 1 コマ 40 分、高専は 1 コマ 90 分の時間割であった。私は中学生に 4 回日本語教室を行った。具体的な内容として、私は日本の箸をテーマに、箸の様々な種類やマナーについて紹介した。日本の箸をテーマにした理由は、新モンゴル学園には日本に留学したいという生徒が多く、日本の文化を何か一つ深く知ってもらいたいと思い、ほとんどの日本人が毎日のように使い、海外の人も日本に来た際は使うことになるため、紹介したことがいつか役に立てばいいなと思ったからである。食べるための箸だけでなく、菜箸や取り箸など用途によって使い分けて使用することや、指し箸や寄せ箸など日本でマナー違反とされている使い方について紹介した。紹介の後は、割り箸を使って豆つかみゲームを行った。4 人か 5 人で 1 グループになってもらい、順番にお皿に豆を移し替え、早く終わったチームが優勝するといったゲームである。まずは箸の使い方と実際に豆をつかむ練習をしてからゲームを行った。優勝したグループには、日本から持ってきた小分けのお菓子をプレゼントした。生徒達と楽しみながら授業を進めることができた。

新モンゴル学園の生徒は沢山質問をしてくれて、積極的に発言してくれる人が多くいたため、楽しく、活発な授業をすることができた。みんな問いかけにも反応してくれて、とても意欲的だと感じた。

２　日本語教室以外での交流活動

日本語教室以外の時間は、授業サポートや高校・高専それぞれの日本語祭りの準備やサポートを行った。レベルに応じて、ひらがなやカタカナの練習をしているクラス、文法を学んでいるクラス、日常会話などを練習しているクラスなど様々であった。

日本語祭りでは、ブースの準備や当日のサポート、閉会式の中で行われた劇の発表会の審査員などを行った。おりがみやかるた、書道、茶道、おにぎりなどのブースを開いた。事前に新モンゴルの学生と話し合いを進め協力して準備を行った。当日は多くの学生でにぎわい、一緒に日本の遊びや文化に触れることができ、とても思い出に残る時間であった。閉会式では高専生による、桃太郎や一寸法師などの劇の発表会があった。衣装や小道具も様々準備し、さらに日本語のセリフを暗記して発表している姿がとても印象的で、どのクラスも本当に素

晴らしい発表であったため、審査するのが難しかった。

学校の活動以外では、工科大学生と観光やコミュニケーションをとる時間が多くあった。美術館やデパート、カフェ、お土産屋さんなど様々な観光スポットに連れて行ってもらった。タクシーやバス、学生の車を使って観光に行ったが、モンゴルは渋滞がひどく、またクラクションを頻繁に鳴らし荒い運転をする人が多くいるため、恐怖を感じながら乗っていた。このような道路状況の中、町を歩いていると、交差点や道路に野良犬がいることもありとても驚いた。美術館では、モンゴル語で書かれている説明を工科大学の学生が日本語で説明してくれたり、お土産屋さんではお勧めのお土産を教えてくれたりした。また、実際にモンゴルの文化に触れ、コミュニケーションする中で、モンゴルと日本の違いやそれぞれの良さや悪さにも気づくことができたためとても有意義な時間であった。

ホストファミリーとは一緒に買い物に行ったり映画を見たり、観光地に連れて行ってもらったりした。特に印象に残っているのは、ホストファミリーとホストファミリーの友達家族と一緒に田舎に行き、雪原で遊んだこと、ゲルの中でバーベキューのようなことをしたことである。田舎に向かう途中、ラクダにも乗ることができた。友達家族も暖かく迎えてくれ、本当に嬉しかった。

３　参加目標への達成度と努力した内容

今回のプログラムに参加する上で、積極的に行動、コミュニケーションをとり自分自身を成長させることを目標にしていた。モンゴルで生活する中で疑問に思ったこと、日本とは違うなと思ったことなどはすぐに質問した。ホストファミリーには小学生の子もいたため、ジェスチャーを使ってコミュニケーションをとる場面もあった。私のホストファミリーは日本に来たことがあったため、実際に日本に来てみて感じたことやモンゴルとの違いについても積極手に質問した。また、日本の文化を多くの人に丁寧に伝えるということも目標にしていた。日本語教室やホストファミリーとの会話の中で、日本について聞かれる機会が多くあった。正確に情報が伝わるよう、簡潔に分かりやすく、丁寧に伝えることを意識した。お互いの国のことについて共有できた時はとても嬉しかった。

４　プログラムに参加した感想

私は今回が初めての海外経験であった。出発前はとても不安であったが、実際に行ってみると新モンゴル学園の学生やホストファミリーが暖かく迎えてくれて、安心して過ごすことができた。そしてあっという間の 2 週間であった。平日は授業や日本語祭り、観光などを通して多くの学生と交流し、休日はホストファミリーや親戚たちと様々な場所に出かけるなど、毎日が充実していた。モンゴル人は人と人との距離が近く家族や親戚同士の繋がりが強いということが分かった。モンゴル人の優しい人柄に触れることができた。互いに尊重し合い生きている姿がとても印象的であった。モンゴルで過ごすことで改めて日本の良いところや悪いところに気づけるなど、新たな発見や違いについて深く考えさせられた時間でもあった。

５　今回の経験を踏まえた今後の展望

今回の経験を通して、不安でも自ら行動に移すことで自分の視野を広げることができるということを学んだ。一歩踏み出してみることで、新たな気づきがあり自分自身の成長にも繋がる。先ほど述べたように、新モンゴル学園の学生や先生、ホストファミリー、ホストファミリーの親戚の方など、様々な年代の人と出会いコミュニケーションをとる中で、当たり前だと思っていたことがそうでないことや、日本の良さや改善すべき点などにも気づくことができた。このように、行動に移すことで多くのことが学べると分かったため、これからは様々な分野に関心を持ち、多くの取り組みにチャレンジしていきたいと思った。また、モンゴルの学生の英語力の高さを実際に見て、刺激を受けた。多くの人とコミュニケーションをとるためには英語力を向上しなければならないなと感じた。これからも人生の選択肢を増やせるよう、今回の経験を活かして行動していきたい。

6　現地での活動写真

写真１　雪原

写真２　ゲル体験

【学生大使 実施報告書】

写真３　モンゴルのラクダ

写真４　日本語教室の様子